



神奈川大学フロンティアクラブ会報

発行日 2020年4月1日
編集・発行 神奈川大学フロンティアクラブ
組織・広報専門委員会
事務局 神奈川大学 総務部校友課内
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL.045-481-5661 (代)
FAX.045-481-2741

第 33 号

2020年度 神奈川大学 フロンティアクラブ



奨学金への感謝と会員拡大に向けた引き続きの協力を求める村田会長

2020年フロンティアクラブの総会・交流会が2月15日、横浜市西区のホテル横浜キャメロットジャパンで開かれ、総会に69人、講演会に85人、懇親会に88人が参加した。

フロンティアクラブ総会 開かれる

冒頭、村田龍也会長は「昨年会員目標を200人と申し上げたが1月末現在で180人となった。目標達成までもう少しのところまで来た。これも皆さんのお陰で感謝申し上げます。今年も積極的な会員増強を図りたく引き続き協力をお願いしたい」と述べた(写真)。

牧内理事長、山本副学長が現状報告

総会終了後、牧内良平理事長がみなとみらいキャンパスの進捗状況や今春完成する中山キャンパスの400メートルトラック改造などスポーツ強化構想を紹介した。

また、山本博史副学長は「入学生志願者は、前年比4千人増の見込みである。昨年の新生児が86万人という現状に鑑みれば、教職員がいま改革しなければ将来、大学は生き残れない。そのために教職員に「何ができるか」を考えてもらいながら取り組む」と改革への思いを熱く語った。

運営委員の改選案が提出され承認。その後の臨時運営委員会で決まった三役や運営委員は次の通り。(任期は2年)

▽会長 村田龍也(S39経済・留任)
▽副会長 原柳作(S46英文、同)、春原正三郎(S47法律、同)、實方誠一(S48工経、同)▽運営委員 古川勝彦(S40経済、同)、鈴木忠(S44経済、同)、中野健一(S45経済、同)、前田純孝(S46貿易、同)、伊藤孝雄(S47法律、同)、小林三夫(S48貿易、新任)、田原清彦(S49貿易、同)、亀山修一(S50英文、留任)、小林照夫(S50経済、新任)、石渡卓(S51貿易、留任)、萩谷紀之(S56法律、新任) ※卒業年度順

トヨタの宮崎洋一執行役員が講演



トヨタ自動車執行役員の宮崎さん

特別講演会では、宮崎洋一トヨタ自動車(株)執行役員が自動車の性能、技術、役割、人との関わり方までもが二変する「自動車産業を襲う百年に一度の大変革」と題し、神大進学やトヨタ自動車入社のきっかけなどに触れた後で、「日本の全就業人口の約1割が自動車産業に従事している。また全産業の売り上げの2割を自動車産業が占めている。これからは国益をかけた絶対に負けない戦いだ」と語った。また、静岡県裾野市に21年から作り始め5年以内に人が住めるようにする実験都市「Woven City」のイメージビデオを示し、情報化・知能化・電動化を意味する造語・CASE(コネクテッド・オートマス・シェアリング・エレクトリック)の説明をしながら、モノやサービスの情報が繋がる社会における次世代の車のありようを解説した。

その後、会場を移した懇親会の冒頭で村橋・フロンティア奨学金募金への高額寄付者の澤野弘二氏(S38機械)、細谷憲二氏(S45法律)、前田純孝氏(S46貿易)に会長から感謝状と記念品の贈呈が行われた。懇親会には村橋・フロンティア奨学生も参加。牧内理事長、山本副学長、宮崎執行役員がそれぞれ語った将来像やその話しぶりに感激した参加者も多く、なかやかに会員同士の交流を深めた。

箱根交流会

神奈川大学フロンティアクラブ「山歩きの会」

小林照夫



金時山頂からの富士山



ヤマドリソウ



ダンコウバイ



オニシバリ



ミズキ



フサザクラ

初めまして、昨年箱根交流会で結成された新しい活動部です。どうか宜しくお願いいたします。

箱根から高尾山連山は、フォッサマグナ地溝帯に位置しその場でしか見られない珍しい草花を見ることが出来ます。

今後、登山だけでなく自然探索、自然探訪、間伐作業体験など県内の素晴らしい里山の魅力を発見し多くの会員の皆様と共感できたら良いと思っています。

1975年経済卒 ※金時山の紹介
開花間もなくのミツマタ群生

事務局からのお知らせ

神奈川大学産学交流フロンティアサロン

第112回神奈川大学産学交流フロンティアサロン

▽日時 5月13日(水)・18時より
▽会場 神奈川大学みなとみらいエクステンションセンター(横浜市西区みなとみらい2-3-1クイーンズタワーA 14階)
▽講師 神奈川大学 経済学部 教授 佐藤孝治氏
▽演題 「ドローンによる空撮調査の可能性と台風15号の被災状況」
▽会費 会員1,000円、一般2,000円 ※詳細が決定次第に皆様宛にご案内を発送いたします。

第113回神奈川大学産学交流フロンティアサロン
▽日時 7月15日(水)・18時より
▽会場 神奈川大学みなとみらいエクステンションセンター(横浜市西区みなとみらい2-3-1クイーンズタワーA 14階)
▽講師 神奈川大学 名誉教授 齊藤 隆弘氏
▽演題 「人工知能(AI)の進展と人間及び社会の未来」

第114回神奈川大学産学交流フロンティアサロン～施設見学会・交流会～
▽日時 9月16日(水)・14時より(予定)
▽会場 施設見学会:横浜港クルージング「マリンチャトル」ほか
交流会:ナビオス横浜カナル 協力:横浜港埠頭株式会社 ※詳細が決定次第、皆様宛にご案内を発送いたします。

会費の納入について

年会費の納入のお願いを6月上旬に発送いたします。金融機関から自動引き落としの会員の皆様につきましては、指定の口座より6月26日(金)に引落しいたします。自動引き落としをご希望の皆様につきましては4月10日(金)までに総務部校友課(神奈川フロンティアクラブ事務局)にご返送ください。

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み中止

卒業式・入学式・第16回箱根交流会

第110回産学交流フロンティアサロン(第6回 施設見学会・交流会)を開催

会員28人の参加した施設見学会が昨年11月28日、江東区中川船番所資料館(江戸時代に小名木川を通る船の取り締まりを行った船番所を再現)を見学後、1947(昭和22)年創業の医療・介護用ベッド業界最大手のパラマウントベッド(東京都江東区)を会場に行なわれた。



介護用ベッドについて説明する坂本さん

パラマウントベッドでは、当クラブ会員の坂本郁夫常務取締役(77年=昭和52年、工経卒)から高齢化社会における医療・介護業界の展望やメーカーとしての役割について説明してもらいました。また、OBの川崎光永氏(84年=昭和59年、電気卒)からは、ショールームを案内していただきました。

その後の交流会は、同社近くの下町情緒あふれる割烹・馬目で行なわれ、和やかな雰囲気のもとで卒業生同士、年齢の垣根を越えた懇親を深めました。

さらなる会員増強を

1997年12月に発足したフロンティアクラブは23年目を迎えます。昨年の総会で目標会員数を200人と申し上げました。この1月末現在で180人となりました。皆様のお陰です。引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

フロンティアクラブと名付けられたのは「開拓者精神をいつまでも忘れずに。また、慣習などにとらわれず新しいことに進んで取り組もう」という熱い思いからだと思っています。その具体的なものとして①学生への奨学金の給付②自己研鑽も兼ね

たフロンティアサロンの開催③教職員や会員との交流④活躍する卒業生の情報発信⑤会報の発行などです。

なかでも向学心に燃える学生への給付型奨学金制度は、応募者が6倍から10倍という人気で、日本の将来を担う人材育成に役

フロンティアクラブ会長 村田 龍也

立つものです。フロンティアクラブの存在意義を大いに高めてもくれるものと自負します。

学生への奨学金給付を始め様々な活動を通じ、さらにフロンティアクラブを発展させて参りたい。そのためには多くの卒業生に当クラブの存在を知って

す。

皆さん、今日は。フロンティアクラブの会合には、何回も出席しており、大変親しみを感じています。本日は、型通りの挨拶は抜きにして、ザックバランに話をしたいと思います。

まず、みなとみらいキャンパスについてです。ご存知のように21階建て、延べ面積5万㎡の広大な建物で、国際日本学部と外国語学部、経営学部の国際系3学部が入り、学生数は5000人規模となります。5000人という規模は単に1つの校舎を建てるということではなく、大学を新たに作るようなもので

5000人規模は全国757校の中でどのくらいのランク(2019年5月)かというと、150番くらいで、神奈川工科大よりやや上のランクです。正に大学を作るようなもので、私はこれを「第二の開学」と呼んでいます。みなとみらいという魅力あるエリアに立地し、グローバルな大学は、ブランド力抜群で、さながら「横浜国際大学」です。

は毎年、シード権を取り、上位に食い込んでもらわないと困るわけで、法人としては、練習環境を改善するなど、テコ入れに力を注ぎたいと思います。3月に完成する中山キャンパスの陸上競技場(400m)の大改修がその一環で、クロスカントリーに続く練習環境の整備です。

続いて、スポーツ系の拠点づくりに関して話をしたいと思っています。一つ目は、中山キャンパス及びその周辺への体育スポーツ施設の整備に向けての動きです。将来構想実行計画では、横浜キャンパス内に体育・スポー

大学の近況報告



学校法人 神奈川大学理事長 牧内 良平

らみなさんどうか、自分はいうなりたい、こうしたい、という夢、目標があったら、それを

声に出して周りに伝えてください。その思いが本気であればあるほど、周りの方も応援してく

れます。その応援はきっと、みなさんの実力以上の結果を引き出してくれるはずですよ。

そのうえで、最後まであきらめずに努力を続ければ、叶わぬものは何もないと私は信じて

います。それが、このプロ入りの件で私が学んだ一番のことだと思っています。(終わり)

人生100年時代のライフプラン

(令和2年1月15日講演)



私は昭和63年法学部卒業後に現在の職場に就職し31年経過しました。神奈川大学と私の勤務先の湘南しんきんは産学官連携協定を締結しており、学生のインターンシップや同大学の寄付講座など人的交流を活発に展開しています。今回の講師もこの協定の一環と思います。

老後資金2000万円問題

昨年6月金融庁の金融審議会・市場ワーキング・グループが「高齢社会における資産形成・管理」報告書を発表しました。金融担当大臣は「国民の将来の不安をおおる」とこれを否認しましたが、否認したことが

却って「老後資金2000万円問題」に発展し、社会問題となりました。ただ、撤回される運命になりましたけれども、内容は厚生労働省・総務省などのデータをもとに金融庁が加筆しており、決して無視できません。

総務省が発表した高齢者無職世帯の家計調査によると、65歳の夫婦世帯の場合は「平均的な1ヶ月の生活費は約26万円。それに對して年金収入は約21万円。毎月約5万円不足し金融資産を取り崩して生活費に充当している。不足分は1年間で65万円、30年後の95歳には2000万円に達する」とのことです。それに対応するために健康で長く就労し、現役時代から個人型確定拠出年金や積立NISA(ニーサ)を利用してお金を貯めていきたいと思います。

必要性を訴えています。投資信託を「分散投資」し「長期」に「積立」することによって、リスク回避となり資産形成につながります。

年金の将来

昨年、年金の財政検証の結果が厚生労働省から発表されました。日本の経済成長率が高ければ、年金の受け取り額が増えますし、逆に経済成長率が低ければ、年金の受け取り額も低額となります。年金問題は経済の問題と密接に関係しています。

よく「年金制度は破綻するのではないか」と聞くことがありますが、現実的ではありません。実際に世界では財政が破綻した国はあっても、年金制度が崩壊した例はありません。日本では今後さらに進展する高齢化に備

えて、年金受給額を調整する仕組み(マクロ経済スライド)により将来の年金も守られています。このマクロ経済スライドの仕組みは世界でも高い評価を得ています。

年金問題は今後も大学授業でも取りあげたいテーマです。

リバースモーゲージとリースバック

老後の資金を確保するため、不動産を活用した金融商品をご紹介します。年金収入だけでは不足する場合の老後資金の補完に有効です。

まずリバースモーゲージとは、自宅不動産を担保に必要な資金を借入し、毎月の利息支払いですむ商品です。借入元本は住まなくなった自宅(担保付)を売却して返済します。借入の資金使途は、生活費、娯楽、旅行、借

金返済など自由です。次にリースバックとは、自宅をリースバック会社に売却してその後も毎月家賃を支払いながら自宅に住み続けられる商品です。

両者のメリットとしては契約後も引き続き住み慣れた自宅に住み続けられることにあります。

最後に

人生を生きるにはお金が必要です。現役時代には資産形成し、65歳以降は健康を維持して出来る限り長く就労することにより、資産の取崩しを押さえ先延ばしすることが理想のようです。



夢をあきらめない、サラリーマンからプロ棋士へ(下)

(平成30年11月14日講演)

瀬川 晶司
プロ棋士



プロ編入試験

私は、将棋界のことを取り仕切っている日本将棋連盟に、嘆願書というお願いの手紙を出しました。その中身は、「私がプロ棋士になれるような道を作ってください。私だけでなく、誰でも年齢に関係なくプロ棋士を目指す道を作ってください」というものでした。認められる可能性は1パーセントもないと思います。だけど、せめて今のルールで本当にいいのかを考えてほしい。それが私の気持ちでした。

私がそんな思い切ったお願い

をしたことに将棋界の誰もが驚き、新聞やテレビでもニュースにもなりました。案の定、多方向からさんざんに悪口を言われ、わがままだ、自分勝手だ、一度失敗したくせに潔くない、などなど、あまりのひどさに、私も精神的にかなり落ち込んでしまいました。

ところが、私がそういうお願いをしたことで、立ち上がってくれた人たちもいたのです。奨励会の頃、一緒に苦労したプロ棋士の友人たちでした。彼らは、将棋界のいろいろな人に、瀬川をプロにしてやろうと説得して回ってくれたのです。やがてマスコミも「瀬川さんのプロ入りを認めるべきだ」という報道をするようになり、私自身もびっくりするほど応援の声が増えてきたのです。

日本将棋連盟は、私の願いを受け入れるかどうか、プロ棋士全員による多数決をした結果、圧倒的多数で、受け入れることになりました。

そんなとき、一通の手紙が私に届いたのです。ドラえものの絵がプリントされている葉書でした。そこには「大丈夫。きっと決まりました。私は特別に試験を受けさせてもらえることになり、それに合格すればプロ棋士になれることが決まりました。これは奇跡と言ってもいいことです。私はとても信じられませんでした。

そしてプロ試験に合格して子どもの頃からの夢であったプロ棋士になることができました。この試験の間も色々ありますが、ただひとつだけ話したいことがあります。プロ試験の1局目、つまり一番最初の将棋を、私は負けてしまいました。この時が一番辛いときで、もしかしたら全部負けるんじゃないか、と不安で仕方ありませんでした。応援してくれた人たちに申し訳ないという気持ちですが、すごいプレッシャーになって、いまにも頭がおかしくなりそうでした。

そんなとき、一通の手紙が私に届いたのです。ドラえものの絵がプリントされている葉書でした。そこには「大丈夫。きっと決まりました。私は特別に試験を受けさせてもらえることになり、それに合格すればプロ棋士になれることが決まりました。これは奇跡と言ってもいいことです。私はとても信じられませんでした。

お伝えしたいこと

最後に私から皆さんに、ぜひ伝えたいメッセージがあります。

どんなことでもいいので人に負けないものをつくる

荏間沢先生に言われて心に残

ツ施設を造る計画でしたが、キャンパス新総合計画では、中山及びその周辺に整備することが昨年12月の理事会、評議員会で承認されました。

二つ目は、人間科学部にスポーツ系の学科を新設するという動きです。先日、理事会で承認

をしたことですが、理工系、人文社会学系の新教育組織をつくる一環として検討が始まったもので、校舎が必要となれば、中山及びその周辺が候補地となります。

この2件の決定を受けて、中山及び中山周辺に土地の手当て

をしなければなりません。法人として、出来るだけ早い時期に土地取得に向けて動き出したいと思っています。土地を手に入れることが出来れば、体育館を中心としたスポーツ施設と、スポーツ系新学科の校舎を合わせ建設することが可能となり、完成す

ればスポーツの一大拠点となります。

もう一つは、陸上部、野球部の合宿所(寮)の問題。

中山のグラウンド近くに造ってほしいという要望が以前から出ていますが、この点についても法人として解決を急ぎたいと思います。

万難を排し大学改革を



神奈川大学副学長 山本 博史

私は神奈川大学から第9号の博士号を取得し、地方国立大

で12年務めた後、2000年に本学に戻ってまいりました。現

在副学長を務めている山本です。専門はアジア経済で、特にタイを研究しています。創立者の米田先生の出身地内子町に実家の墓があり、本学との縁を強く感じております。

本学の今年の出願者数は前期入試の段階で3万7425名となっており、昨年の3万5228名からも志願者を増やしています。2015年前後が志願者の最も少なかった頃で約2万8000名でした。

今年は1万人以上志願者が増えていくことになります。入学定員厳格化の影響ももちろんあると思いますが、みなとみらい新キャンパス開設が受験生から支持されていると執行部は考えています。

志願者は盛り返していますが、新入生の基礎学力低下は大学として大きな問題となっています。原因は入試の軟化です。受験人口のピークは1992年の121.5万で大学入学定員67.6万でした。今年2020年の受験人口は70.2万で、大学入学定員は69.3万です。全員が大学へ進学できる状況となっています。そのため、合格者の基礎的な学力は、学生の偏差値が以前と同じ50としても大きく低下しています。

このような大学の状況を打開すべく、大学改革が求められました。本学も文科省や大学基準協会から大学改革が突き付けられて対応はしてきましたが、十分な成果が上がったかという

と、偏差値の低下が物語るようになかなか実が上がってこなかった、というのが偽らざるところです。

現在の7学部は7大学であり、相互に利害を主張してきました。そのため全学レベルの改革が進まない現実があります。教職員の意識を学部から神奈川大学の所属へと変えなければなりません。

また、財政面でも、改革を実現する原資を供するため、構成員にコスト意識を浸透させる必要があります。改革の遅れから、問題は山積みですが、現在の教員執行部は万難を排して大学改革を進める覚悟です。皆様も温かく見守っていただければと思います。

フロンティアクラブ会員紹介



伊東 慎介

リーガルマインド

この度、武笠先輩の仲立ちにより村田会長様からご推薦頂き、入会させて頂きました伊東です。私は1981年(昭和56)年法学部法律学科を卒業、横浜市役所に入庁し昨年3月に定年退職、現在は横浜港埠頭株式会社にて勤めております。役所生活37年のうち通算で26年という歳月を横浜港を管理する港湾局で過

ごしました。

局長時代の3年前、来春開校予定のみなとみらいキャンパスが局保有土地に進出することが決定し、また現在の役職も尊敬する本学先輩の岡本坦元横浜市政助役がかつて就かれていたポストに系譜するなど、ここに至り図らずも神大、横浜市とのご縁を感じざるを得ません。

ところで在学中は兄玉

敏ゼミで物権法を専攻しました。兄玉先生はわが国民法学の大家我妻栄氏の最後の弟子といわれ私

の在学中、法学部長とともに学長代行にも就任されていました。ゼミ生は時々自宅に泊りがけで招かれ、すき焼きパーティと麻雀、合宿、卒業論文の作成とハワイ旅行、野武士の会というOB会など活発に活動しました。当時すでに大学幹部職員であった武笠さんもゼミの先輩でいらつしやいます。

さて本稿を書きつつ40年前を振り返る中で、ふとよく先生がLEGAL MINDという言葉を使われていたことに気づきました。

当時は深く考えていませんでしたが今更ながら意味をネットで検索すると「個々の事案に直面した時、法律を使って適切に問題を解決する能力」とありました。

これは正に役人にとって最も大切な能力で常に肝に銘ずべき精神そのものだと思います。退職してから気づいても仕方のな



我妻 文男

2019年ジャスダックに上場

この度、神奈川大学フロンテ

イアクラブに入会させて頂きました我妻文男と申します。私は、1982(昭和57)年、経済学部貿易学科を卒業し、在学中にアルバイトをしていた警備業に将来性を感じ、神奈川大学の同級生と共に、1985(昭和60)年に共栄セキュリティーサービス株式会社を設立いたしま

した。

創業当時はバブル期ということもあり、公共事業が活発で工事現場の交通誘導警備への受注が大変多かったのですが、業務拡大とより安定した収益を目指し、近年はオフィスビルや商業施設などに警備員を常駐させる施設警備を主力に業務を行っております。お蔭様で首都圏を中

心に北海道から関西まで

に及ぶ広域展開と、2000名超の在籍警備員を抱え、2019(平成31)年3月には東証JASDAQ市場に新規上場を果たすことができました。警備業としては2002(平成14)年のALSOCK以来17年ぶり、8社目の上場となります。(全国の警備会社数は9714社)

最近では、防犯カメラやセンサーが広く普及し、AI等を活用した警備新時代も迎えておりますが、凶悪犯罪や相次ぐ国際

スポーツイベントなどを背景に人的警備の需要はますます高まっております。そのような中で、『今日という日が、皆さまでとつて、いつもの一日であるように、私たちは「今日も、そこにいます。』というスローガンを掲げ、人的警備を成長の軸としております。当社は『誠実』かつ『確実』という経営理念のもと、警備業を通じて社会貢献のできる企業として、法令を遵守し、社会への責任を果たしていくことで、社会から信頼される企業となることを目指して

おります。今後は、人的警備のプロフェッショナルとして、都市再開発や統合型リゾート開発等を背景とした「生まれ変わる社会インフラ」に対応するため、警備員数1万人を目指し、日本の安全・安心に寄与してまいりたいと考えております。

また、フロンティアクラブの一員として、微力ながら母校の発展にお役に立てればと思います。

1958年福島生まれ。82年貿易卒。85年共栄セキュリティー(株)設立、現在に至る。



鈴木 正美

1999年社労士事務所開業

私の生まれは横浜市神奈川区

の三ツ沢という所で横浜翠嵐高校の南側に位置します。この辺りは横浜駅まで徒歩で行けるにもかかわらず当時は山で、あけびの実を採ったり三ツ沢公園にあつた大きな池でフナやザリガニが釣れて通いつめたりしたものでした。

大学入学後に入会したのはス

ポーツ系のサークルでしたがス

ポーツに限らず色々な経験をすることができました。入会後の新人生歓迎コンパでは先輩が代わるがわる1年生に酒を注いで

は飲ませました。我々のサークルは当時100人を優に超える大所帯で、たいして飲めない私は人生初の酩酊状態になりました。次の朝、目

大学を4年間はスポーツ、ア

ルバイト、遊びと濃密な時間を共に過ごしながらも同期とは年

に1、2回は時間を合わせて夜のお付き合いを継続しています。3年生からは貿易商務論のゼミに入りました。勉強をしない劣等生の私にも貴重な優を付けて下さった先生には感謝しております。

を覚ますとどこかの下宿

の一室で、新聞紙が敷き詰められた床には戻した物にまみれた同期が6、7人。

まく話ができた。その後

数回の面接では3年次に取得した英検1級を高く評価して頂いて話は進み、入社試験解禁日の7月1



亀山 修一

就職活動の思い出

4年次の5月、6月の会社訪問の期間に、分厚いリクルートブックを見て商社を中心に40社位回ったが序盤から中盤にかけては連戦連敗。その大半は指定校制度による門前払いだった。つまり神大は指定校には入っていないかったのだ。このままどこにも決まらずに終わってしまつたら、私の人生は一体どうなる

だろうと考えると不安や焦り、疎外感が増していった。しかしここで思わぬ幸運に巡り合えた。正に「捨てる神あれば拾う神あり」「下手な鉄砲も数撃せば当たる」を地で行く展開となった。戦後の財閥解体で誕生した食品専門商社の(株)東食(現在のカーギルジャパン社)では2人の採用委員と波長が合い、う

日に筆記試験と役員面接を受けるように言われた。しかしそれでも漠然とした不安があつたので、何かと理由を付けては6月末までこの会社に足を運び続けた。対応してくれた人事部の次長が最後に「君には根負けしたよ。」と言って、私の書類を取り出した時とは違う別の引出しに入れた。この時に私はどちら

に転ぶかわからない不安定な状態から、少し良い方向に進めたと思った。その後、何とか内定にこぎつけ、翌年4月に無事入社することができた。

入社してしまえばこちらのもの。日々の仕事に出身大学名は関係ない。私が学生にアドバイスするのなら、就職活動では思い切り背伸びをして少しでも自分を高く売ろうとすることだ。恵まれた環境の下で努力を続けていれば、将来そこから更なる飛躍が期待できるのだから。

1975年英文卒、同年(株)東食入社。82年オーストラリア酪農庁入庁。02年マレー・ゴールバン酪農協同(株)を経て、18年よりムラカワ(株)顧問。

フロンティアクラブ会員紹介



新聞に携わる者として

私は前回の東京オリンピックが開催された年である、196

の駅に降り立った時のことを思い出します。

4（昭和39）年に徳島県で生まれ、高校まで過ごした後、1983（昭和58）年に神奈川大学経済学部経済学科に入学しました。初めての一人暮らし、大学生活を送るべく、これからの横浜での生活に胸を膨らませ白染

大学時代は学業に勤しむというよりは、もっぱらクラブ活動とアルバイトに精を出す、親不孝な学生でした。クラブは体育会アイスホッケー部（今はスケート部なのですが）に入部
南国育ちで水のうえに立ったこ

ともなかった初心者のが、よく四年間スケートリンクに通ったものだと今更ながら思います。よき先輩や後輩、そして同期の仲間に恵まれたと感謝しています。体育会本部の役員にも選ばれ、他のクラブの友人でもできました。生まれも育ちも違う友人達と夜遅くまでお酒を飲んで、語り合ったことを思い出します。様々なアルバイトを経験しましたが、一番長く続いたのは、蕎麦屋の出前だったと思

います。どんぶりをひっくり返したことも何度かありましたが、一人暮らしの学生には、昼食と夜食が腹一杯食べられるこのバイトがとても魅力的だったことを覚えていています。今にして思えば、神奈川大学で過ごした四年間は、思い出もたくさんありますが、瞬く間の出来事で、もつとあれやこれやいろんなことをやっておけば良かったと後悔しています。

ました。新聞の販売促進営業を行う販売局で22年間、総務局で10年間勤務した後、令和元年に取締役に就任いたしました。活字離れと言われ、新聞を購読する家庭も減少していますが、フェイクニュースが氾濫する現代、多くのの方が、最も信頼されているメディアとして「新聞」をあげています。新聞に携わる者として、信頼され、必要とされる新聞を次世代に引き継いでいくことが使命であると思っています。

1987年經濟卒



学生時代の思い出

椿つばき
善和よしかず

私が在学中の4年間は、学生運動や内ゲバ事件の影響で、警察機動隊が大学の構内を警備し、学校休校や期末試験の中止が頻繁に発生いたしました。その為、学年毎に年間を通して受講できた年は有りません。期末試験等は殆どがレポート提出形式で実施されましたので、単位の取得には影響は有りませんでした。

普段より授業終了後は飲食店でアルバイトをしておりましたので、休校の際は即アルバイトに通っておりました。お陰で実家からは年間授業料の援助のみで、衣食住の費用はバイト代で賄いました。そのバイト先でお店の社員の方々より、競馬の楽しみ方を教わりました。当時ハイセイコーというアイドルホースが活躍していた時代です。

ので、卒業後の就職先は競馬関係の仕事がしたいと思うようになり、競馬専門新聞社に入社する道を選びました。入社目的は競走馬の調教の様子を記録・分析するトラッカマンという職に就きたかったのですが、1年間は営業職に携わるよう指示されました。2年目に目標のトラッカマンなれると思っておりましたが、その年の新入社員が配属

したところ、半年ほど待てば要望通り配属すると慰留されましたが、辞表を提出した後でしたので撤回しない旨宣言し、会社を辞めました。

競馬新聞社には1年間と短い期間ですが、働けたことは良い思い出です。その翌月に、縁あって通関業を主たる生業としてゐる会社に就職することができ現在に至っております。入社43

て活躍されておられ、私より遙かに実力があつたと認めざるを得ません。

1954年千葉県生まれ。77年貿易卒、同年1月に(株)競馬研究社入社、78年2月退社。同年3月(株)二葉組回漕店入社(88年(株)二葉に商号変更)、15年東京定温冷蔵(株)代表取締役社長就任(二葉のグループ会社)現在に至る。



善行地ぜんぎょうじ 潔まけ

夢と感動を与える仕事

善行地 潔

この度、神奈川大学フロンテ
イアクラブに入会させて頂きま
した善行地潔と申します。若輩

(昭和63) 年経済学部貿易学科卒業、名鉄観光サービスに入社いたしました。

者でございますが、神奈川大学の益々の発展のため、お役に立てれば幸甚です。それでは私の経歴からお話をさせていただきます。1965（昭和40）年きます。水揚げ量日本一、静岡生まれ、静岡出身です。1988

私は高校時代より旅行業界への就職を目指しており、そのためのステップとして大学選びも海外との商取引を学べる貿易学科に入学いたしました。ゼミナールは貿易商務に定評のある三村ゼミに所属しておりました。

駅前レンタルレコード友(愛)等々、アクティブで充実した学生生活を送っておりました。名鉄観光に入社してからは、銀座支店、静岡支店、さいたま支店そして昨年より学生時代の思い出の地、横浜支店に赴任いたし

たのは、私の財産、誇りであり
ます。これからフロンティアアク
ラブの一員として、微力ながら
私の人生経験が少しでも生かせ
るよう、母校の発展に貢献でき
れば光栄に存じます。

今は単身赴任中で時間はあり

す。仕事も遊びも一生懸命がモットーです。

1988年貿易卒、同年名鉄観光サービス（株）銀座支店入社、06年同社静岡支店長、13年同社さいたま支店長、19年から横浜支店長、現在に至る。

横浜支店長、現在に至る。



野口隆のぐち たかし

野口隆

昨年、村田会長、原副会長のお誘いを受けて入会しました。私は1979（昭和54）年経済

れ、当時、就職活動解禁を厳守していた横浜銀行に入行となつた次第です。

学科を卒業、同年横浜銀行に入行しました。大学時代の思い出は、大学の方々には大変申し訳ないことですが、授業は代返、もっぱら麻雀荘とアルバイトが生活の中心であり、夏休みに遊び呆けて就職活動スタートに遅

同期入行者98人中神大卒業者が5人と例年に比べ多い年の入行でした。最初の配属が横須賀市内の追浜支店で、その時の直属の上司として大変お世話になった方が、現フロンティアアクラプ産官学共同専門委員長の古川

が実質倒産する中、残念ながら宮陵会活動も休止に至りました。銀行での思い出は、神大で勉強をサボったツケから、終始勉強させられる日々としか記憶にあります。環境はバブルの絶頂期から崩壊、そして不良債権処

日本配合飼料（当時東証１部）と経営統合・完全合併を経て、現在のフィード・ワン（東証１部）の取締役副社長執行役員に至っております。

しみに社業に勤しんでいる今日
この頃です。
フロンティアクラブの皆々様
どうぞよろしくお願い致します。
1979年経済卒

1979年經濟卒

フロンティアクラブ会員紹介



金澤 紀幸

卒業以来 横浜に居住

1969（昭和44）年、この横浜で義父が立ち上げた青果卸業を継いで40年余り。売り上げも倍増し、おかげさまで今年息子に事業継承できる運びになりました。時間的に余裕ができたので、今回、遅ればせながらフロンティアクラブに入会させて

おりました。しかし、寒い田舎から出てきて気候の温暖な横浜が気に入ってしまいました。たまたま、進学した地が横浜で、私にはとても居心地の良い環境でしたので、それ以来ずっと仕事も結婚も現在に至るまで、横浜に居住することになりました。子どもや孫たちも横浜育ち。今も横浜で暮らしています。

提供している販売業です。大規模災害等の場合は、手持ちの青果物を横浜市民に供給する役目があります。横浜市中央卸売市場として公共に寄与しなければなりません。この業務は、取引先との信頼関係がすべてです。末端の担当者とのコミュニケーションが大事で、人と人のつながりで商売ができるわけです。わが社の理念が顧客第一であり、満足度を高めることが商売につながります。私はこのような販

売業の面白みが性に合っていたようで、現在の繁栄につながっております。職場がみなとみらい地区を見渡す場所にあり、神奈川大学みなとみらいキャンパスも間もなく開校します。これからの神奈川大学の益々の発展に微力ながら寄与できるよう活動したいと思っています。よろしくお願ひします。

1975年応化卒



重川 孝志

学食とテニスと私

十二月のある日、会社に封書が届いた。何も考えずにゴミ箱へ捨てようとしたその時、神奈川大学フロンティアクラブという名前が見えた。聞いたことない。新卒の反社的な勧誘かと思いい、中に入っていた資料を読んだ。これが初めてのフロンティアクラブとの出会いだった。

学と同時に車の免許を取ったので、いろいろな場所にもドライブに行くと。学業はというと、法律学科で児玉ゼミに属していた。20人を超える大所帯のゼミで、ゼミの内容はというと…。楽しかったことは覚えていて。いろいろと。上手く単位も取れ、無事に4年で卒業でき、そして就職。日本電池株式会社（現ジーエス・ユアサ）に就職した。配属先は名古屋で、営業として約10年間勤務した。その後、いろいろな縁があつて今の会社に転職し、

39歳の時に代表取締役となった。大学時代に勉強に集中しなかったもので、いろいろと苦労をした。特に語学は絶対に必要で、今でも苦労して学んでいる。若い時の苦労はしておくべきだと、学生時代の自分に会えたら、説教をしたい気分だ。

うからだ。どの様な方々と会えるのかワクワクしている。皆さんといういろいろとお話をしたいので、ぜひ今後とも宜しくお願ひします。

一方、在学中に得た宝もある。それは友人達だ。神大という場所に様々な地域から集まってきた仲間は、自分の心を豊かにして、人生を楽しくしてくれた。今でもそうだ。

1969年生まれ、東京都出身。93年法律卒。同年 日本電池（株）入社（現ジーエス・ユアサコーポレーション）、01年退社。同年 角田電気工業（株）入社。08年代表取締役、現在に至る。



酒井 強志

熱い想い

ご存じの方もおられるかもしれないが、私が大学3年の正月、体育会の鏡開きの席で事件は起きた。私はサッカー部だったが、同じゼミに所属していたA君はアメフト部で隣のテーブルにいた。校歌斉唱の途中で、隣のテーブルで喧嘩（争い）が始まったのである。喧嘩というよりはA君がいきなり隣にいたクラブ

いかなる理由があろうと、暴力は許されない。元々A君は喧嘩っ早く、言葉で注意することなく、いきなり殴りかかる行為は褒められる行動ではないが、自分の属する組織に対する強い思いは、彼にとつての正義であつたに違いない。

とともに、キャンパスは立派になり、私の神大は昔のものとなつてしまった。貿易学科もなくなり、帰属するものが無くなつていても、母校に対する気持ち共有するには校歌を一緒に歌えば繋がることできる。

生が社会で、様々な活躍することと、それを知ってもらふことが必要で、そして、所かまわず、みんなで神大の校歌を歌いたい。総会の2次会で校歌、応援歌を全員で熱唱できたことは素晴らしい。



須藤 修司

事業基盤は神奈川大学の学びから

当社は1954（昭和29）年、軸受用金属プレス精密部品製造会社として亡き父が代表として起業いたしました。軸受（ベアリング）はあらゆる回転駆動部分に使用され、摩擦や振動を最小限に抑える役割など高性能化や省エネ化になくてはならない存在であり、業界用語では「産業のコメ」とも言われています。

3年生までに旋盤、フライス盤、研磨機等を使用する機械油に関して学んでいたのも、4年生在学時の卒業研究は油の研究をする予定でした。私の油の研究の為に当時の指導教官が、私の家業が金属プレス加工と知り、油の研究に役立てる事が出来るようにと、大学でプレス機械を購入してくれました。

父の急逝により、家業が俄然忙しくなり、大学に顔を出すことが難しい状況に陥りましたが、幸いなことに3年生までに卒業

このように神奈川大学は私の事業経営における基礎を作ってくれました。自動化、自社の工作機械製造、「ルートタ イプシールド板」の特許を取得し、現在国内に本社工場を含め3工場、海外に1工場を展開しています。また、教育と後進の教育にも情熱を注ぎ、今後も母校、神奈川大学の向学心のある学生に奨学金の一助に基金を提供してまいりたいと思います。

1961（昭和36）年、私が工学部3年生在学時に創業者である父が急逝し、急遽、私が代表に就任。おかげさまで今年創業67年目を迎えます。1年生

父の急逝により、家業が俄然忙しくなり、大学に顔を出すことが難しい状況に陥りましたが、幸いなことに3年生までに卒業

このように神奈川大学は私の事業経営における基礎を作ってくれました。自動化、自社の工作機械製造、「ルートタ イプシールド板」の特許を取得し、現在国内に本社工場を含め3工場、海外に1工場を展開しています。また、教育と後進の教育にも情熱を注ぎ、今後も母校、神奈川大学の向学心のある学生に奨学金の一助に基金を提供してまいりたいと思います。

1939年東京都生まれ。64年機械卒。（株）須藤製作所代表取締役